

◆ 事務局

「監理技術者講習」の案内について (DVD 講習)

H28 年度

開催日	会場	定員
3月16日(木)	サンシップとやま 701	45

H29 年度

開催日: 4月26日(水)・5月26日(金)・7月13日(木)・9月14日(木)・11月22日(水)・1月12日(金)・3月13日(火・予定)

会場: 富山県教育文化会館

定員: 30名

申込等詳細は同封の案内チラシ又は本会ホームページをご覧ください。

建築士定期講習の案内について

コード	開催日	会場	定員
3B-06	3月13日(月)	テクノホール	100

申込み等詳細は、本会ホームページをご覧ください。

県知事指定「建築士会技術研修(建築環境編)」のご案内

日時: 平成29年3月14日(火) 午後1時25分~4時50分
(受付: 午後1時~)

会場: 富山県教育文化会館 1階集会室

(富山市舟橋北町7番1号 TEL 076-441-8635)

申込等詳細は同封の案内チラシ又は本会ホームページをご覧ください。

◆ 研修委員会

平成28年度 建築文化講演会開催のご案内

日時: 平成29年3月25日(土) 午後1:30~3:30

※講演会終了後、見学会を予定しています。

場所: 富山県産業高度化センター2階会議室

(高岡市オフィスパーク5番地)

講師: 広谷 純弘氏(株式会社アーキヴィジョン広谷スタジオ 代表取締役、和歌山大学客員教授、東京理科大学非常勤講師)

演題: つながる建築

定員: 70名(どなたでも参加できます)

申込等詳細は同封の案内チラシをご覧ください。

◆ 砺波支部

「既存住宅現況検査(インスペクション)」連続講座(2回目)開催のご案内

日時: 平成29年3月17日(金) 18:00~20:15

会場: 砺波まなび交流館 2階視聴覚室

(砺波市栄町717番地) TEL(0763)33-1115

講師: 中谷 元秋氏

(一級建築士事務所ハウス・ソリューション研究所 代表)

内容: 最近、「インスペクション」という言葉をよく耳にするようになりましたが、その意味や意義を正確に理解している人は少ないのではないのでしょうか? 依頼者の目的により検査対象や手法は変わりますが、様々な場面で利用されるようになってきています。また、不動産売買時においても宅建業法の改正により、消費者保護の観点から活用促進へシフトし始めています。

DVD 講習: 「見てわかる既存住宅インスペクションの勘どころ」など

スケジュール:

18:00~18:15 受付

18:15~18:45 宅建業法改正とインスペクション

18:45~18:50 休憩

18:50~20:05 DVD講習(約70分)

20:05~20:15 質疑応答

*この機会に是非受講ください。

共催: (一社)富山県建築士事務所協会 福野支部

建築 CPD: 2単位(CPDカードをお持ち下さい。)

定員: 先着順 40名(どなたでも参加できます。)

参加費: 建築士会・事務所協会会員: 無料 会員外 500円

申込先・申込期限: 3月20日までにメール又はファックスで

(E-mail: yamazaki@homare-jimusho.com FAX: 0763-52-3368)

問合先: (公社)富山県建築士会 砺波支部・(一社)富山県建築士事務所協会 福野支部

担当: 山崎 (TEL: 0763-52-2446 携帯: 090-2127-4311)

◆ 高岡ブロック

「左官体験及び塗装体験」及びワインの会のご案内

日時: 平成29年3月18日(土) 13:30~16:00

会場: 青野倉庫(氷見市朝日本町(氷見市民会館付近))

内容: 改修中の青野倉庫の下屋耐力壁の左官塗り体験及び羽目板部分の塗装体験

※青野倉庫には駐車スペースはありません。近隣の駐車場をご利用ください。

※雨天決行になります。

※当日は汚れてもいい服装で参加お願いいたします。

左官体験終了後、高岡にてワインの会を開催いたします。ワインの会参加の方には後日会費等詳細をご連絡いたします。

定員: 30名(どなたでも参加できます。)

参加費: 会員 無料 会員外 500円(材料代を含む)

申込先・申込期限: 3月15日までにメール又はファックスで

(E-mail: takaoka-shibu@toyama-kenchikushikai.or.jp

FAX: 0766-27-8788)

問合先: 高岡支部 担当: 樋口 (TEL: 0766-27-8787)

◆ 内閣府認可 一般社団法人職業技能振興会

「古民家鑑定士」認定講習・試験開催のご案内

日時: (3月度)平成29年3月14日(火) 13:10~17:40

会場: 富山市体育文化センター研修室(富山市友杉1097)

講師: 職業技能振興会委託インストラクター

内容: 古民家鑑定士教本(別途購入が必要です6,780円)に基づいて古民家に関する全般の講習です。資格取得後は築50年以上の古民家鑑定を行い、鑑定結果に基づいて所有者にアドバイスしたり、相談を受けたりします。

建築 CPD: 3単位(受付時に専用出席者名簿に氏名とCPD番号をご記入下さい。)

定員: 20名(どなたでも参加できます。)

参加費: 23,000円(受講・受験・認定書発行費用含む)

申込先・申込期限: 開催日の7日前まで

HP(<http://www.kominkapro.org>)から詳細確認の上申込。

問合先: (一社)富山県古民家再生協会 担当片岡

(TEL: 0766-69-7550)

*「古民家鑑定士」は民間資格です

< 建築職人アーカイブに引き続き、いろんな分野の建築人のお話を随時掲載します。 >

- 建築人語る -

「アルミによる富山の建築環境の変化」

サッシメーカーに40年間勤務した建築士会員から、アルミの王国と言われる富山でアルミサッシの普及における技術の開発と建具や建材を通して富山の建築産業の大変換期に関わられた経験をうかがった。

	おざわ たけお 小澤 武雄さん
	富山市 婦中町 建築士会婦負支部所属 昭和22年生まれ 69歳 吉田工業(株): 現在のYKKAP (株) 1966年入社 所屬地(富山・石川・名古屋・東京) 2010年退社。今は農業と地元の 土地改良区の世話やゴルフなど で、元気に忙しく過ごしている。

— 建築科を卒業したのになぜメーカーに就職されたのでしょうか？そしてどんな仕事を？ —

・アルミサッシと私

私は学生時に手先で描くことが好きで建築分野に進みました。建築製図の仕事にあこがれていましたが、YKK(当時吉田工業(株))が建材の分野にも事業を拡大しはじめており、先輩の勧めで、初めて建築技術職として入社しました。全国で5人採用の内一人でした。

当時すでにYKKはファスナーの世界的メーカーになっていました。創業社長の吉田忠雄は「善の巡環」という経営哲学を掲げ、お客さんや協力会社そして自社の三者のすべてが得するために徹底した合理化と機械化、そして原材料からの一貫生産を会社の方針にして、国内最高品質のファスナーを作っていました。

昭和30年代までの富山の建築の窓は木製が主流で、大きな建物(ビル)の窓は戦前からスチール製でした。スチールサッシは強度があり、大きなものも作れましたが、塗装しても錆びる欠点がありました。戦後になって、日本でアルミの精錬が行われるようになり、押出成型部材によるアルミサッシが昭和27年に初めて作られ、錆びず、軽いアルミサッシに人気が出てきました。

吉田忠雄社長は出身地の魚津が戦前からの木製建具の生産地で建具業界のことを知っており、視察で米国のアルミサッシの発展状況を見て、日本も同じようになると考えられたことや、ファスナーの製造過程でアルミ合金を作り、金型で押出成形する機械を持っており、工場に余力があったことから昭和36年にサッシの部材(押出型材)等を製造し、先発のサッシメーカーへ納入する事業を始めていました。

私が入社した時は、自社でのサッシ製作事業を拡大しようとしていた時期でした。

・アルミサッシの普及

現在はアルミサッシを取り入れない建築は考えられないほど時代が変化してきました。しかし、アルミサッシが認知されるようになるには時間がかかりました。

最初に住宅の建具にアルミを導入したのは、「アルミ建具」という開口部の枠は木のままで戸だけアルミの型材で作ったものでした。しかし現場の木工事の施工誤差(傾き)を吸収できず、アルミの型材の枠枠に木を接合しその木を現場で削って調整するような工法も実行されていました。

外部建具のアルミ化は、腐りやすい水回り(浴室)の窓を木製建具からアルミにするのがはやり、開口部枠もアルミの押出成形材となっていきます。

入社後、しばらく社内設計部に勤務していましたが、ビル用サッシの型材の開発に関わり、その後、設計事務所に採用をお願いする仕事を担当しました。

新規参入だったので、採用実績がなく、ほとんど売れませんでした。そのため、国内では量産できる規格住宅用サッシに的を絞って「ハイサッシ」を開発し、高品質かつ低価格の部材を開発し、全国に強力な販売網をつくることに方針変更しました。

住宅サッシの販売店を各県につくり、その責任者に若い職員を配属しほぼ全権を任せるような運営を実行し成果をあげ、住宅のアルミサッシ化の流れに乗って、順調に拡大。瞬く間に日本でのトップブランドになっていました。

一方ビル用サッシは個別受注・個別生産で量産しにくい面があり取り組みが遅れ、高層ビルに的を絞って米国のメーカーと提携し、国外での販売を目指しました。

先ず、シンガポールでの受注を初めとして実績を作り、その実績をもとに国内でも徐々に販路を拡大していきました。

私は、設計監理者のいる工事の外壁・窓の担当として、設計者の意図と社内の設計部門や製造部門との連携を図る役割を担って、以後<技術営業>を専門に行って来ました。

・技術営業としての思い出

ビル用サッシには特殊な注文があったり、改良すべき課題は多々あり、日々改良の積み重ねでした。特に設計者のデザインに対応することや、現場の収まりを改良することが必要でした。

起型物件(押出型材の断面を新規に作るもの)として記憶に残るものは富山総合庁舎(1967年竣工)の工事です。

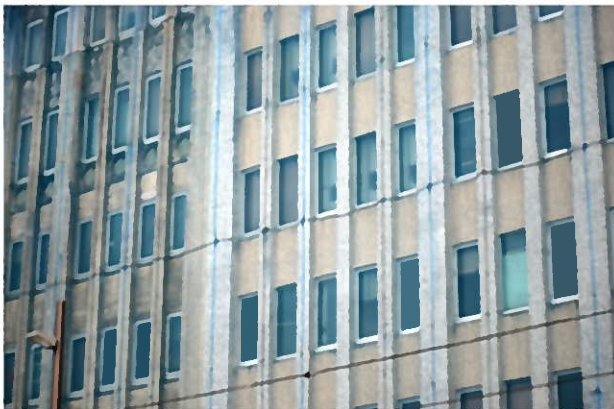


富山総合庁舎

当時の県営繕課の平澤親夫氏の指示で外引き違いサッシ二重底型材（雨水の等圧原理処理）の新起型材を製作しました。これは強風下での防水性能を向上させる収まりを提案している設計で、YKK が製造機械の製作分野（工機部門）を持つ総合企業力あってこそ対応できるものでした。特殊な建築物での起型サッシ分野への対応としては最も早いと記憶しています。

・鉄製建具のアルミ化

その頃までのビルの建具はスチールサッシがほとんどで、錆びるため、アルミサッシに取り替える需要が出てきました。元の大和百貨店や電気ビル旧館の古いスチールサッシを、業務に支障なく短期間でアルミサッシに交換する技術リーダーとして担当させていただきました。



旧大和百貨店

また、取替工法には、既存のスチールの窓枠をそのままにしてアルミ枠材を被せる「カバー工法」が手軽で普及したこともあります。

この工法は各サッシメーカーがそれぞれの方法で実施していたものですが、あるメーカーが工法のパテントを取っていて、YKK も含めその他のメーカーがすべてパテント料を支払わなくてはならなくなったという苦い経験があり、パテントの重要性を認識させられました。

・集合住宅のサンルーム

また、北陸の冬をアルミサッシ部材で暴風雨から守り快適な空間を作るために、富山県内の集合住宅のベランダに当時初めて物干し室（現在：サンルーム）を提案しました。県の建築住宅課川崎政善氏が県営住宅の改修でサンルームを設置したものとそう

でないもので、入居者の評価をアンケート調査し、サンルーム付住宅の人気が高いことを明らかにし、その後新築の公営住宅にサンルーム設置はどこでも身近になりました。



県営不二越団地

・太陽光発電設備の先がけ事例

一昔前の 1998 年に竣工した黒部市生地特定公共住宅では、今、新エネルギーとして課題になっている太陽光発電をベランダ手摺・屋根・外壁等のアルミ建材にセルを組み入れて、その部位での発電を図り、また入居者個人が売電する事を国内でもいち早く取組ませてもらいました。



手摺に太陽光発電セルを設置した黒部市生地特定公共住宅

これに関する指導技術も川崎政善氏のリードで国の外郭団体の多方面の皆さんの協力で完工しました。このように当時の革新的で前向きな県行政の建築担当者とお会いことができ、その建物を見ると、郷土に強い愛着と誇りを感じている一人です。

・サッシ以外の建材

最近ではコンピューターの普及であらゆる建築製図も変化して、近年の富山県内では全日空ホテルやサンシップとやま、北陸の代表的な建物の石川県庁・西田哲学館・21 世紀美術館・福井図書館では、外装分野で設計者の意図を製品製造に反映し、建築資材を提供する仕事をしてきました。

この歩みはいわゆる伝統建築技術とは異なりますが、全国的サッシメーカー数社を有する富山県ならではの建築物の外装面での新たな建材による表現の普及に関して、県内建築分野の皆さんに支えられて自分なりに建築技術の改良・改革にわずかなりとも寄与できたのではないかと振り返っています。

（聞き手：小林英俊）

「高校生の建築甲子園」富山大会の報告

今回で7回目となる「2016年高校生の建築甲子園」において、県立富山工業高等学校の作品「時をつなぐ、モノをつなぐ、人をつなぐ～団地からはじまる地域再生計画～」が全国78校から146作品が出場した全国大会で見事優勝となりました。詳細は今月発刊の「富山建築士2017」に掲載しますが、ここではそこで掲載し切れなかった富山大会（予選）について報告します。

なお、全国大会の結果は日本建築士会連合会のホームページにも掲載されています。

1 富山県予選

- ・開催日 平成28年11月21日（月）
- ・開催場所 富山県建築設計会館3階会議室
- ・予選出場校
富山工業高校1作品、高岡工芸高校2作品
- ・審査委員長 横山天心氏（富山大学芸術文化学部准教授）
- ・審査員 濱田修氏（JIA 富山地域会会長）
中野健司（本会会長）
今村彰宏・近江吉郎（本会副会長）
- ・優勝 富山工業高校の作品（前掲）
監督+選手（2年生）4名
- ・準優勝 高岡工芸高校の下記2作品
作品名 「あふたーすくーる」
監督+選手（3年生）2名
作品名 「伝統を未来に」
監督+選手（3年生）3名

2 審査状況

今村副会長より今年度の建築甲子園の概要及び各校からの応募状況について報告し、引き続き横山委員長より具体的な審査方法の説明があった。

各審査員が応募作品の審査を行い、その後に各自推薦する作品について説明・協議を行ったところ、全員一致して優勝作品が決定した。他の2作品は甲乙つけがたく準優勝となった。

3 横山審査委員長の講評

今年のテーマは昨年と同様「地域のくらしー空き家を活かすー」であった。新築ではなく、既存の空き家をいかに活用し、地域のくらしをどのように改善していくかといった高校生にとってとっつきにくい難しい課題に果敢にチャレンジしてくれた学生たちにまずは賛辞を送りたい。

優勝案となった「時をつなぐ、モノをつなぐ、

人をつなぐ～団地からはじまる地域再生計画～」は、昔、市営住宅として開発されたが、現在は空き家が全体の住戸数の大半を占める辰尾団地のコンバージョン&リノベーションである。単に昔の住戸を現代のライフスタイルに合わせて改修するのではなく、まずは、住んでみたいと思えるように、4つの住棟をつなげてマーケットのような商業スペースをいくつか配置することで、団地の活気や魅力を高め、その後徐々に住戸の改修を計画するといった段階的な提案が高く評価された。コンクリートブロックの組積造に木造の小屋組みを組み合わせた既存の住戸から、コンクリートブロックの躯体と小屋梁以外は一旦全て撤去し、2つの住棟を覆うように鉄骨の大屋根をかけ渡し、床レベルを調整するように床を土間コンクリートとすることで、住戸部分は売り場スペースへ、住棟間のスペースは椅子やテーブルが置かれた休憩・交流スペースへとコンバージョンしている。解体時に発生する廃材は分類し、土間コンクリートの骨材や建具などにリサイクルして廃棄ゴミを減らすエコロジカルな工夫など、細かな点にも配慮がなされていた。強いて注文を付けるなら、大屋根の架構を鉄骨造とせず、休憩や交流スペースに柱を落としながら木造の小屋組みとしたほうが、スケールのにも素材的にも、周囲の住棟と調和できたであろう。

準優勝となった「あふたーすくーる」、「伝統を未来に」は富山県立高岡工芸高校の校内の解体予定の校舎を、減築しながらコンバージョンするもので、前者は学童保育施設+交流施設として、後者は高岡の伝統技術を継承するためのギャラリーや体験施設として計画された。それぞれ想定されたプログラムに応じて空間を上手く再編していたが、校舎としての空間の特性を新たな用途の空間の魅力に繋げる工夫があればより魅力的な提案となったであろう。双方の提案には甲乙つけがたかったため、共に準優勝となった。



（富山大会審査風景）